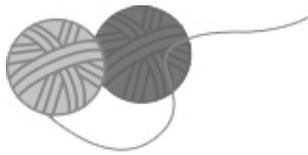


サポセン mail

No.164.2016.11.20発行

〈発行元〉 特定非営利活動法人 緑区子どもサポートセンター
千葉市緑区菅田町 2-25-78 7F-1 菅田 TEL&FAX 043-308-4436
E-MAIL:kids-support-midori@coffee.ocn.ne.jp
URL:http://saposen.konjiki.jp/



中学生グループ会

編み物をしよう！



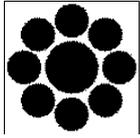
10月16日あすみが丘プラザにて、講師の佐藤まりさんに教えて頂きながら、中学生が編み物に挑戦しました。中学生からは“編み物はしたことがない”と不安の声もありましたが、毛糸の太さやかぎ針の大きさからとても分かりやすく丁寧に説明して下さい、みんな熱心に取り組みました。

まずは、自分が選んだ毛糸とかぎ針でくさり編みからスタートです。次々すくうと一本のひものようにくさがりが長く続いていきます。始めは、かぎ針で輪っかの中の毛糸をすくうのが難しい。毛糸は何本かの糸が集合してできているので、うまくすくわないと違う糸をひいて、まとまっている糸と一緒にすくえなくなります。ちかちゃんも、毛糸を持っている手に力が入ってしまい、網目が固めにできて毛糸がすくいづらくなっていました。持ち方やすい方を手を添えて教えて下さり、一人でするときっと詰まる所も優しく教えてもらったので、気を持ち直してトライしていました。

講師をして下さった佐藤さんは、編み物が好きで気軽に編んでいらして、こちらも見ていると簡単にできそうな気持ちになります。おっしゃっていたのは、編み物のいい所は、間違えたらほどいて、合っている所まで戻れるのと何度でも戻ってできるのがいいと話されていました。人は得意不得意があるので、挑戦したいならするといいし、嫌ならやめるのもいいと中学生の気持ちも大事にして下さいました。

ある程度くさり編みができるようになったので、アクリルたわし、しきものなど、それぞれ自分の作りたいものに挑戦し始めました。2時間があっという間に過ぎ、作品は途中でしたが、この後どうするかをみんなに問いかけました。みんなもう少しやりたいとの事でしたので、次回12月にチャレンジとなりました。佐藤さんの素敵な作品をそれぞれ頂いて帰りました。一度手が覚えたものはすぐ思い出し、できるようになると実感しました。(記入 大塚)





大椎城探検！



2016年度後期あそび塾の最初は、10月16日(日)の「大椎城探検！」でした。

講師は、千葉県生涯大学校でも講師をなさっている、中川桂子さんで、主に地域の歴史を探訪、研究されている先生なのですが、小さい子どもにも優しく丁寧に話して下さる方で、元は小学校の先生もされていたという事で、納得でした。

千葉市は今年、開府890年という黄色いポスターを、プラザなど公共の場所で良く目にしますが、一体、どういう事だろう？と地元出身者でも疑問に思われている方も多いと思います。今回の大椎城探検！はこの謎も解きながら、というワクワク探検でした。

さて、プラザを朝10時に出発して、一行はあすみが丘ワンハンドレッドヒルズ内に入って進みます。この中は私有地であるため、あすみが丘の住民でもあまり入ったことがありません。大きなお屋敷のある整備された人気のない道路を進んで行くと、南のはずれに出ますが、その先はうっそうとした竹林です。その竹林の中に人が踏みならしたけもの道があり、そこを入れて行きました。「本当にこの道でいいの？」と疑いたくなるような道で、手つかずの竹の原生林です。雨風にさらされ、折れ曲がった竹や木が道をふさぐ中を、またいだり、くぐったりしながら進むのは、子どもたちには「アスレチック」の様であるらしく、蜘蛛の巣を払いながら、楽しそうに進んで行きます。



途中、いくつかの空堀だった場所を通りました。大椎城は東西600m、南北300mの舌状台地に立っており、それを三本の堀で切った四郭の「連郭式」の城郭だそうです。戦国時代よりさらに前、平安時代末期のお城です。



見えて、これらはお城のお殿様の家来だった人のお家だよ、と説明を受けると、「今でも住んでるの？」と不思議そうにしていました

竹林を抜けると、左側に崖があり、落ちないように木の柵が設けられた比較的歩きやすい道に出ましたが、この道は腰曲輪（こしぐるわ）と言ひ、戦の時に敵を討ちやすくするため、意図的に作られた道だそうです。今は平和な時代なので、ここを歩いていても敵に襲われることはないよ、と説明を受けると、みんなホッとしたような顔をしていました。また、この道から崖の下を望むと、民家が数件



が、その人の子孫が住んでいると言うと、やはりホッとした様でした。

腰曲輪をさらに進み、民家のあるちょうど上あたりの茂みの中に、小さな石碑がありました。「椎台剣鏡碑」という碑で、200年ほど前に土地の方が、剣や鏡、壺などを発掘したが、再び土中に埋め石碑を立て、祭ったという事です。大椎城の中は、この碑がある場所しか発掘されたことはなく、貴重な石碑との事でした。

その石碑のすぐ先に、「史跡・大椎城跡」と書かれた比較的新しい石碑があります。周りも少し広く下草も刈ってある場所で、私たちも記念写真を撮りました。



大椎城は、長元の乱(1027~1031)を起こした平忠常(たいらのただつね)が居城したお城で、その後1126年に千葉の猪鼻城に移るまで、千葉氏(ちばうじ)の本城でした。つまり、今から890年前に、千葉氏が今の土気から千葉にお城を移したので、今年を千葉市の開府890年というわけなのです。やっとつながりましたね。その後、酒井氏というお殿様の勢力が強くなり、大椎城も酒井氏のものとなりましたが、16世紀ごろには酒井氏も滅びて、お城も廃城となってしまったようです。



大椎城跡の石碑のあるあたりが西の端で四郭の中でも主郭でした。その突端まで行ってみると、見えませんでした。下には村田川が流れています。去年のあそび塾でみんなで歩いた場所ですね。主郭の上は雑木林ですが、比較的明るくて気持ちの良い場所でした。帰り道は来た道をそのまま、戻る形で、行きよりは歩き慣れていて、短く感じました。

最後の竹林を抜けて、街中の光が見えると、ホッとしたような、夢の時間が終わってしまって寂しいような気持ちがしましたが、子どもたちはどう感じたのでしょうか？



ワンハンドレッドヒルズ内の公園で一休みをして、おやつを頂きました。小さなすべり台もあったのですが、小さな小川も流れていて、ほとんどの子がその小川をのぞき込んで遊んでいました。今の子はすべり台には興味がないのか？もうそんな年ではないという事なのか？些細なことですが、面白いなあ、と思いました。



その先、プラザに戻る前に「ふれあいの広場公園」を通りましたが、この公園にはトータンポールがあり、今は一本しかないのですが、最初は三本あって、これは千葉市がカナダのバンクーバー市と姉妹都市であるため、バンクーバーのトータンポールが送られた、というお話も伺いました。あとの二本は木が腐って危なくなってしまったために撤去されたとの事で、どおりで、芝生の真ん中ではない場所に立っている意味もわかりました。

この様に、どんな事でも気になったり疑問に感じたことは調べたり、人に聞いてみるという事が大事なんだ、と教えて頂きました。今回の大椎城探検は、少し難しい歴史の話も聞きながらのハイキングでしたが、みんなの頭の片隅にでも小さな種を蒔くことが出来たなら、と思います。ご興味のある方は詳しい行き方をお教えしますので、理事大多和までお問い合わせください！これを機会に地域の歴史、風土に触れてみるのも良いですよ。(記 大多和)

フリースクール「ネモ」を知っていますか？

先月に引き続き、今月もフリースクール『ネモ』についてご紹介させていただきます。

子どもは意外と社会のルールに縛られている

お話をしてくれたフリースクールに通う13歳の少年は、なかなか電車に乗ることができなかったそうです。フリースクール『ネモ』（習志野市）に通うには電車に乗らなくてはならなかったけど、平日の昼間電車に乗ると人目が気になり、学校に行くべき時間に外に出ることはとても勇気がいることだったようです。朝、ランドセルを背負った子どもたちが家の前を歩いていく音や声が聞こえなくなると、いつもほっとしたと言います。「不登校は悪いこと。」という概念に子どもたちは私たちが思う以上に苦しんでいます。小学校の卒業式の翌日から急に外に出られるようになったそうです。そして、『ネモ』に通ううちに「不登校は悪いこと。」という思いはしだいに消えていったそうです。スタッフも友達という感じで、気持ちをわかってくれるから居心地がいい・・・と言います。不登校になると自分みたいに学校に行けないのは世界で自分だけという気持ちになるけど、自分だけじゃなかったんだと安心したそうです。ちいさな我慢が積み重なって、どうしても限界を超えた時に誰にでもおこることなのです。他にも学校に行けない子は沢山いること、不登校は悪いことではないということをご伝えてあげてください。



親(大人)が絶対じゃなくなった！

彼の場合お兄さんがスマホを持つようになり、不登校についていろいろ調べてくれたそうです。「子どもと親のサポートセンター」(千葉県)の親の集まりにお母さんが参加したりして、少しずつ親の対応も変わってきたようです。「親の集まりがあるとしばらくはいいんだけど、少しするとまたダメなんだよね〜！」なんて言っていました。親の物の見方が変わると、子どもは大きく変わるので。「3日もお風呂に入っていない！」と考えずに「3日前にはお風呂に入った！」と考えてみませんか？



「不登校」の子は将来自立できるの？

子どもが不登校になった時、どの親も一番心配することが将来大丈夫なのだろうか？ということではないでしょうか。このままずっと家に閉じこもっていたら・・・社会に出て自立することはできるのだろうか？不安は尽きないはずですが、それをスタッフの前北海さんに聞いてみました。「ほとんどの子たちが高校に行くようになりますね。僕は行かなくていいよ！って言うんだけど・・・。大検を受けて大学を目指す子もいます。普通の学校はカリキュラムがあるけど、『ネモ』にはそういうのがないから、自分のやりたいことを自分で企画書にして、プレゼンして、みんなが賛成しなければできない。だからとってもいろんな力がつくんです。」子どもには自分で成長する力があります。それでも、我慢が積み重なってもう頑張れなくなってしまった時は、どうぞ急がず、あたたかく見守ってあげてください。(安藤)

